

令和2年10月29日

岡大附中の教育研究～持続可能な社会の創り手を育むことを目指して～

◆発表のポイント

- ・子どもたちに「自ら課題を見つけ、学び、考え、判断して行動し、よりよい社会や人生を切り拓いていく力」を育む教育が求められています。
- ・岡山大学教育学部附属中学校は中等普通教育・教員養成・教育研究をミッションに、教育目標「自主自律 豊かな心で たくましく」のもと、SDGsを意識した先進的挑戦的な教育活動を推進しています。
- ・学校教育全体を通しての次世代育成と研究の過程や成果を内外へ発信することで、地域の教育力向上を目指しています。

現在、グローバル化や人工知能・AIなどの技術革新が急速に進み、予測困難な時代になりつつあります。これからの社会を生き抜くうえで、子どもたちには「自ら課題を見つけ、学び、考え、判断して行動し、よりよい社会や人生を切り拓いていく力」が求められます。また、地域や国際社会においては、国連SDGs（持続可能な開発目標）に基づき「誰一人取り残さない」持続可能な社会づくりが求められています。

本校では、中等普通教育・教員養成・教育研究の3本柱をミッションに、教育目標「自主自律 豊かな心で たくましく」のもと、先進的挑戦的かつ持続可能な教育活動を推進しています。蓄積された教科教育に加えて、SDGsを意識したテーマ設定のもとで多様な外部・専門機関などとの連携を生かした総合的な学習の時間のカリキュラム開発にも着手しています。

学校全体で「学びの意義を理解し自ら学び続ける生徒を育成するカリキュラム・マネジメント—SDGsを意識した学びに向かう力・人間性等の伸長を中心として—」をテーマとした、カリキュラムづくりや探究活動やプロジェクト型学習の発展・充実、評価手法の導入・開発・実践、学校組織マネジメントを推進し、学校教育を通じた次世代育成と地域の教育力向上を目指しています。

■発表内容

<導入・背景>

現在、グローバル化や人工知能・AIなどの技術革新が急速に進み、予測困難な時代になりつつあります。これからの社会を生き抜くうえで、子どもたちには自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、自ら判断して行動し、よりよい社会や人生を切り拓いていく力が求められます。また、地域や国際社会においては2015年9月の国連サミットで採択されたSDGs（持続可能な開発目標）に基づき、「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会づくりが求められており、次世代の育成が重要視されています。こうした中、2021年度より中学校で全面実施される新学習指導要領（注1）では、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3つ

PRESS RELEASE

の柱からなる「資質・能力」を総合的にバランスよく育てていくことが目指されています。

本校では、平成 28 年度から先行して、新学習指導要領において育成を目指す「資質・能力」を育むための単元や授業の在り方に焦点を当て、各教科を中心に実践研究に取り組んできました。また、平成 31 年度より SDGs を意識したテーマ設定のもとで、岡山大学、岡山理科大学、岡山 ESD 推進協議会、NPO 法人だっぴ、NPO 法人 ICOI、岡山市立東山・操山公民館などの多様な関係機関との連携を生かした総合的な学習の時間のカリキュラム開発にも着手し、学びの意義を理解し自ら学び続ける生徒の育成を図っています。

<研究内容、業績>

以上の観点から、本校では「学びの意義を理解し自ら学び続ける生徒を育成するカリキュラム・マネジメント」を共通研究主題として、教科教育と総合的な学習の時間を両輪として、以下のことに取り組んでいます。(注 2)

(1) 共通研究主題のもとで、各教科が研究主題をそれぞれ設定し、育成すべき資質・能力を明確にし、それを効果的に育成するためのカリキュラムづくりを行う。

(2) SDGs を意識した総合的な学習の時間について、3 年間を見通し教科教育とのつながりと生徒の探究活動の質を高める取り組みを行う。

(3) SDGs との関連や多様な外部・専門機関などとの連携を生かしたプロジェクト型学習を発展・充実させ、教科横断的で総合的な教育活動の推進を目指す。(注 3)

(4) 学びの意義を理解し自ら学び続ける生徒の育成において、学びに向かう力・人間性等の伸長を適切に測る評価手法を導入・開発・実践し、生徒が実生活や実社会との関連や協働的な問題解決が必要であることの視点などを含め、自らの学びを省察し改善できるようにすることを目指す。

(5) SDGs 達成につながる ESD の視点や現代的課題に関わる教員研修、多様な教員による合意形成を図るとともに、教員個々の強みを生かせる学校風土を醸成するなど、本研究の推進基盤として必要な学校組織マネジメントを推進する。

(6) 地域との密接なつながりを有する公立学校に対して、学びの意義を理解し自ら学び続ける生徒を育成するカリキュラム・マネジメントの可能性を提言する。

この取り組みは、令和 2・3 年度国立教育政策研究所教育課程研究指定校として本校研究部および研究推進委員会を中心として全校、全教職員で推進しています。今後は本校全体の教育活動の充実を通じた持続可能な社会づくりへの貢献が期待されるとともに、本取り組みそのものを持続可能なかたちとして発信することで、地域の公立学校に好事例を共有していきたいと考えています。

<展望>

共通研究主題のもとで、各教科及び総合的な学習の時間に取り組む教育活動を通して、生徒に育成すべき資質・能力の伸長が期待されます。また、取り組みを持続可能にするためにカリキュラム・マネジメントが促進されます。特に、SDGs との関連や多様な外部・専門機関などとの連携を生かし、3 年間を見通したプロジェクト型学習である総合的な学習の時間については、地元の公立中学校における実践の広がりへ繋がれると考えます。

PRESS RELEASE

さらに、新学習指導要領で示された資質・能力の3つの柱を育む基盤としての学校組織について、教員個々の強みや能力、教員研修、合意形成のあり方などをふまえた学校組織マネジメントについて提言を行うことも目指しています。

今後も、岡山大学 SDGs 行動指針に則り、先進的かつ挑戦的な中等普通教育・教員養成・教育研究を追求していきます。

<略歴>

1980年生まれ。岡山大学教育学部卒業。岡山市立西大寺中、京山中、旭東中を経て現職。

2016年度内閣府・地域コアリーダープログラム日本代表青年。2019年度野崎教育賞受賞。

■補足・用語説明

注1) 学習指導要領：文部科学省が定める教育課程（カリキュラム）の基準

注2) カリキュラム・マネジメント：「社会に開かれた教育課程」の理念の実現に向けて、学校教育に関わる様々な取組を組織的かつ計画的に実施し、教育活動の質の向上につなげていくこと

注3) プロジェクト型学習：特定の科目を勉強するのではなく、プロジェクトや目標達成のために取り組む学習方法のこと

<お問い合わせ>

岡山大学教育学部附属中学校

教諭・研究主任 竹島 潤

(電話番号) 086-272-0202

(FAX) 0856-272-7941



岡山大学は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。